

侵略の惨状

戦争犯罪を非難する

おぞましい惨劇である。この残酷な侵略戦争の結果を断じて容認できない。国際機関による真相解明を進め、責任者を処罰しなければならない。

ロシア軍が撤退したウクライナの首都キエフ（キエフ）近郊

で、多くの遺体が見つかった。地元の住民らとみられ、現場の映像などが報じられている。

ウクライナ当局によると、チャルコフ州で少なくとも410人にのぼる。彼ら手に縛られていたり、地雷をしかけられたりしていた遺体もあった。

ロシア政府は関与を否定しているが、そもそも彼らの侵攻で起きた戦禍である。これまでロシア軍は病院や住民の避難所への攻撃を重ねてきた。今も戦闘が続く南部マリウポリでは、住民約5千人が死亡したとされる。今回は、ロシア軍の撤退した首都圏で、国際.MediaTypeが確認できたものだ。

この現場を見るだけでも、ロシア軍が非武装の住民を非道に扱っている疑いは濃厚だ。東部や南部の激戦地域を含めた人道被虐全體を考えると、国際法違反の戦争が生んだ「戦争犯罪」の規模は甚大であろう。

国連事務総長は今回の報道に「衝撃を受けた」とし、停戦と責任追及を呼びかけた。すでに開戦以降、多くの国からの要請を受けて、国際刑事裁判所（ICC）が捜査を始めている。

国連の常設機関である国際司法裁判所は3月に、軍事行動を中止するよう暫定的な命令を出したところ。しかし、この命令を拒否したロシアの独善は、強く非難されるべきだ。

ロシア軍は首都圏の周辺から部隊を引いた一方、東部や南部での攻勢を強めている。首都の攻略に失敗したため、ロシア軍は、より広い地域での占領地を広げる狙いがあるのだ。

プーチン氏は、ロシアの最重要の祝日となる5月9日の対ナチスドイツ戦勝記念日を意識しているとの見方が強い。その日にウクライナでの「勝利」を演出して国民の支持を強めたいと思惑とみられている。

仮にそうだとすれば、少なくとも今後1カ月以上の間、戦闘は続く。何の罪もない住民を巻き込む、さらなる戦争犯罪が繰り返される可能性が高い。

プーチン氏は人道に反する蛮行をただちに中止し、停戦協議のテーブルに着くべきだ。その実現のために、日本を含む国際社会は、より実効的な追加制裁を科すほかあるまい。